

表 令和6年6月の火山現象に関する特別警報、警報、予報及び情報の発表履歴

火山名	特別警報、警報 及び予報の状況	発表した火山現象に関する 特別警報・警報・予報・情報等		概要
桜島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル3、 入山規制)	解説情報 第46～53号	3日、7日、10日、14日、 17日、21日、24日、 28日 16時00分	噴火活動が継続。南岳山頂火口の爆発、噴火、噴煙、大きな噴石飛散、火映の状況。昭和火口では噴火及び火映は観測されていない。 現地調査による火山ガス（二酸化硫黄）放出量（12日）は、3300トン/日で、非常に多い。 火山性地震、微動の発生状況。 GNSS連続観測では、島内の一部の基線で2023年1月頃から山体膨張とみられるわずかな伸びが認められたが、同年4月頃から停滞。始良カルデラ（鹿児島湾奥部）を挟む基線では、長期にわたり地下深部の膨張を示す緩やかな伸びがみられる。始良カルデラ地下深部にマグマが蓄積した状態で、火山ガス放出量も概ね多いことから、今後噴火活動が再び活発化すると考えられる。
		降灰予報(速報)	(今期間発表なし)	噴火発生から1時間以内に予想される、降灰量分布や小さな噴石の落下範囲。
		降灰予報(詳細)	(今期間発表なし)	噴火発生から6時間先まで（1時間ごと）に予想される降灰量分布、降灰開始時刻。
口永良部島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル3、 火口周辺規制)	解説情報 第49～56号	3日、7日、10日、14日、 17日、21日 16時00分 24日 16時10分 28日 16時05分	古岳火口付近浅部の火山性地震は多い状態。新岳付近の火山性地震は少ない状態。新岳火口で白色噴煙を観測。火山ガス（二酸化硫黄）放出量は少ない状態。 11～13日と25～26日の現地調査で、引き続き古岳火口付近及び新岳火口西側割れ目付近に地熱域を確認し、特段の変化は認められず。 GNSS観測で、2023年11月頃にかけてみられた古岳付近の膨張を示す変動で膨張した状態が維持されている。 火口付近浅部の地震活動はやや活発で、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量や古岳の地熱活動は2023年6月からの活動以前の状態より高まった状態で推移。新岳火口及び古岳火口の周辺において噴火が発生する可能性がある。
阿蘇山	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	解説情報 第31～34号	7日、14日、21日 16時00分 28日 16時05分	火山性微動の振幅は5月31日から6月1日にかけて一時的にやや大きく、19日にも一時的に大きくなったが、それ以外は小さい状態で推移。火山ガス（二酸化硫黄）の放出量（4日、12日）は、1400、1200トン/日でやや多い。11日と19日の現地調査で、中岳第一火口底に乳緑色の湯だまりを確認。湯だまり量は約5割、湯だまり内で噴湯を確認。南側火口壁は、引き続き温度の高い状態、19日の最高温度はやや低下。 5月15日以降、火山性微動の振幅に時々増大がみられ、火山活動に高まりが認められる。
浅間山	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	解説情報 第45～52号	3日、7日、10日、14日、 17日、21日、24日、 28日 16時00分	火山性地震は、4月中旬以降増加した状態。3月中旬からの山体西側の膨張を示す傾斜変動は、4月下旬から鈍化し5月に入り停滞。火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は2023年3月以前に比べて多い状態。
薩摩硫黄島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	解説情報 第23～26号	3日、10日、17日 16時00分 24日 16時10分	火山性地震は少ない状態。火山性微動はなし。 GNSS連続観測で島内の一部の基線で2023年10月頃から縮みの変化がみられる。噴煙、火映、地殻変動等の火山活動の状況。

令和6年6月 地震・火山月報（防災編）

火山名	特別警報、警報 及び予報の状況	発表した火山現象に関する 特別警報・警報・予報・情報等		概要
諏訪之瀬島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	解説情報 第29～32号	3日、10日、17日 24日 16時00分 16時10分	噴火活動が継続。爆発及び大きな噴石の飛散は観測されず。噴煙、火映の状況。集落周辺での降灰は確認されず。火山性地震、微動の発生状況。GNSSでは、島の西側深部におけるマグマの蓄積量の増加を示す変動は認められない。
		降灰予報(速報)	(今期間発表なし)	噴火発生から1時間以内に予想される、降灰量分布や小さな噴石の落下範囲。
		降灰予報(詳細)	(今期間発表なし)	噴火発生から6時間先まで(1時間ごと)に予想される降灰量分布、降灰開始時刻。
焼岳	噴火予報 (噴火警戒レベル1、 活火山であることに留意)	解説情報 第1～6号	2日 15時20分 3日～7日 16時00分	山頂付近で微小な火山性地震が増加。5月30日から日回数は、5、7、8、20、4、6、5、4回。6日までの10日間で70回。GNSS連続観測では、山頂付近で緩やかな膨張を示すと考えられる変化が継続。中長期的に火山活動が高まってきている可能性があり今後の活動の推移に注意。
		解説情報(臨時) 第7～30号	7日 22時10分 8日～30日 16時00分	山頂付近の火山性地震は6月7日までの10日間で80回。その後74、75、78、75、58、71、73、79、83、69、77、72、68、76、84、75、73、68、67、76、72、72回。GNSS連続観測で長期的に山頂付近の緩やかな膨張を示す変化が継続。11～13日の現地調査では山頂付近の噴気及び地熱の状況に特段の変化は認められず。火山性地震がさらに増加した場合、噴火警戒レベル引上げの可能性あり。

注1) 表中、解説情報とは「火山の状況に関する解説情報」のことである。

注2) 浅間山、阿蘇山、桜島、薩摩硫黄島、口永良部島、諏訪之瀬島においては、噴火警報を発表している間、毎日02時から3時間毎に8回降灰予報(定時)を発表している。